

【概況】<液化天然ガス世界で不足・米原油輸出量週間では過去最大>

●21日、米紙ウォール・ストリート・ジャーナルは21日、米連邦準備制度理事会(FRB)が12月の米連邦公開市場委員会(FOMC)での利上げ幅縮小を巡り議論する可能性があるとの報道。これを受けて、米長期金利の上昇が一服するとともに対主要通貨でドルが下落。ドル建て商品である石油は割安感から買いが入りやすくなりました。前日に中国が新型コロナウイルス防疫対策緩和を検討していると報じられたことも同国の需要回復期待につながり、エネルギー商品の買いを支えましたが、相場は**85.05**ドルへ下落しました。

●24日、中国国家统计局が24日に発表した7~9月期の国内総生産(GDP)は前年同期比3.9%増となり、伸び率は4~6月期を上回ったものの1~3月期を下回りました。また中国税関総署が同日発表した9月の同国原油輸入量は4024万トン(日量約979万バレル)と、前年同月比で2%減少。中国の需要低迷が相場の重しとなり**84.56**ドルへ下落しました。

●25日、サウジアラビアからの報道によると、アブドゥルアジズ同国エネルギー相は25日、米国が戦略石油備蓄の放出を決定したことを念頭に、「市場を操作するメカニズムとして利用している」と批判。また、国際エネルギー機関のピロル事務局長が同日、液化天然ガス(LNG)が世界で不足する中、産油国の減産により「初の世界的なエネルギー危機を迎える」と述べた、とも伝わり、エネルギー需給逼迫懸念が強まり相場は**85.32**ドルへ反発しました。

●26日、米連邦準備制度理事会が利上げペースを減速させるとの観測が台頭し、米長期金利の上昇が一服。これを受けて対主要通貨でのドル安が進みました。また、この1週間の米原油輸出は日量510万バレルと週間としては過去最大となりました。国内製油所の稼働率も88.9%と2018年以來の高水準となり、エネルギー需給逼迫懸念が一段と強まり相場は**87.91**ドルへ続伸しました。

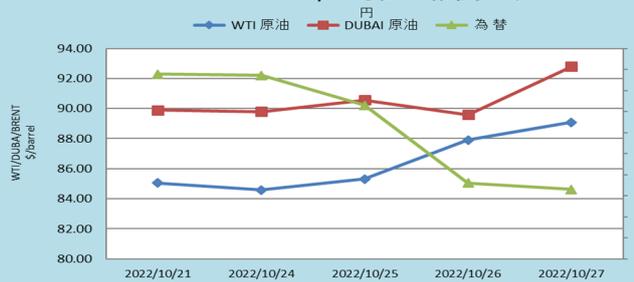
●27日、米商務省が27日朝に発表した7~9月期の実質GDP(国内総生産)は、季節調整済み年率換算で前期比2.6%増と3期ぶりにプラスに転換しました。景気後退への懸念が和らぐ中、エネルギー需要の拡大期待が台頭し、買いが優勢となり相場は**89.08**ドルへ続伸しました。

10月28日 16:00現在 WTI原油 87.87ドル 為替 1ドル 147.67円

国内石油製品在庫 10月22日時点



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ



【製品卸価格】<販売枠を残した業者同士で最後の売り込み強まる>

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは、「-1.5円」、補助金は、「-36.4円」、都合「-0.1円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの24日時点の小売価格平均は169.2円となっております。今月は、第2週を除いて元売月間玉と市況連動玉を持つ業者にとって有利な仕切り体系になり両業者が、市場をリードしました。

《10月29日以降》次回の元売り改定は、原油コストは、サウジ調整金-3.7円込みで「-2.0円」、激変緩和補助金は「-36.5円」の見込みで、都合「-2.1円」の値下げ改定の予測となっております。今月は、ガソリンについては、輸入玉が安く入着するため商社の油槽所では、製油所より価格を安く設定し市況をリードしました。中間留分については、元売月間玉と市況連動玉を持つ業者に有利な展開となりました。最終週になって販売枠を消化した先から市場から撤退し始めているため徐々に市況は、上昇してきていますが、採算販売にはほど遠い厳しい市況となっております。販売枠を残している業者は、月末まで残り数日しかありませんが、価格対応し販売を強化しています。しかし次回の改定では、-2.1円くらいが予想されるため購入する側は、必要最小限の調達に抑え来月3日以降の価格改定後にオーダーを先送りする傾向です。

	次回元売変動予測	
	11/3~	元売変動予測
ガソリン	→	-2.1
灯油	→	-2.1
軽油	→	-2.1
A重油	→	-2.1
LSA	→	-2.1

※原油コスト「-2.0円」 サウジ調整金込み
 ※激変緩和補助金「-36.5円」
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】<次世代風力発電機を開発するチャレンジャー>

台風もエネルギーに変える「垂直軸型マグナス式風力発電機(以下 マグナス風車)」を開発する株式会社チャレンジャー(本社:東京都墨田区、代表取締役:清水敦史、)は、株式会社前澤ファンド(本社:東京都港区、代表取締役:前澤友作)を引受先とする第三者割当増資を実施し、総額約12億円の資金調達をしました。調達した資金は、マグナス風車の大型化開発の本格着手等にあてる予定です。チャレンジャーは、2011年の福島原発事故をきっかけに日本のエネルギー問題に着目し、世界的にも気象環境の厳しい日本において風力発電を普及させるべく、マスナス力と垂直軸を組み合わせた風向風速の変化に強いマグナス風車を開発しています。「マグナス力」の利用により発電できる風速域が広く、プロペラの代わりとなる円筒翼の自転をリアルタイムで制御し、強風による暴走を起きにくくします。「垂直軸型」により風向に依存せず発電できるため、風向きに合わせる必要がなく、激しく風向が変化しても一定の稼働率を維持できます。チャレンジャーは、世界で初めてマグナス風車の実用化を成功させ、2018年8月に沖縄県石垣島で10kW機の実証実験を開始しました。2020年度には10kW機を量産化し、2021年8月にフィリピンに10kW機の稼働開始を果たしました。このたび調達した資金をもとに、更なる大型化の開発に本格着手するものであり、採用・組織体制の強化などにもあてる予定です。これにより、台風などが頻発する日本の風力発電の強化や島嶼部などを中心とした世界各国の非電化地域に、安定した電力普及の実現を加速させて行くとの事です。

[出典] ① <https://challenergy.com/2022/09/22/fundraising2022/>